

増田俊男の『愉快な暴言』2026年5月18日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

トランプ・習近平首脳会談で証明され 米中基本的立ち位置(スタンス)

今回の米中首脳会談についてアメリカのメディアは、農産物やボーイング(飛行機)について、「これまで失ったものを多少取り返しただけで、これと言って新たに得たものはなかった」と言い、ニューヨーク市場は下げた。

(ニューヨーク3市場とも1%以上下げた別の理由は増田塾で解説)

イランは米中首脳会談の前日、「中国はイランの最も重要なパートナーである」と述べ、中国はイランに対して発言力があることを明らかにすると同時に原油200万バレルを積んだ中国籍(Yuan Hua Huu号)がイラン指定の航路をこれ見よがしに通過した。

トランプは自分が一方的に仕掛けて、世界中に被害を与えているイラン戦争終結の目途も立てられない状態での米中首脳会談となった。

トランプはイランに発言力がある習近平に対しイラン説得(トランプの尻ぬぐい)を頼む立場になり、習近平は出来ることは何でもすると言った。

ところがトランプは習近平に頼むことは何もない、頼めば見返りを求められるなどと大口を叩く。

トランプは今を時めくビッグ・テックの大物(CEO)たちを数十人随行させ貿易、投資の為に「貿易委員会」や「投資委員会」などで習近平に「アメリカと一緒に儲けようではないか」とマネーで習近平を釣ろうとした。

よくある悪徳不動産屋の地上げ手法だ。

習近平は、トランプが国家安全保障指針としてG2(Group2)という言葉を使ってまで米中二大国体制をうたっていることから、「建設的、戦略的、安定関係」という表現を使って、「現在の良好な勢いを大切に、懸念を排除し、両国関係の安定した関係を推進しなければならない」と述べ、さらに「これが良好な米中関係の基本であり、前提である」と主張、トランプに賛同させた。

そこで習近平は、本年2月のトランプとの電話会談で、当時アメリカの台湾への110億ドル(約1兆7,000億円)の武器売却計画を「慎重に処理するよう」求めていたことから、台湾問題を「適切に処理出来なければ、両国は衝突し、米中関係を危険な境地に追い込むことになる」と再び台湾への武器輸出をけん制した。

トランプが米中二大国関係(体制)を望むなら受けてやるから「台湾から手を引け」と言う脅しである。

だからトランプは、今後の台湾への武器輸出について聞かれると、「するか、しないかまだ分からない」と言わざるを得なかったのである。

米中が置かれている立ち位置を見れば今回の「米中首脳会談は中国主導であった」と評されるのは当然である。

米中首脳会談を勝敗で表現するなら中国が勝利することは初めから決まっていた。

経済で言うならテクノロジーの優劣。

人口 14 億人と 3 億人の国ではどちらに天才が多くいるか。

経済は質と市場規模。

技術開発、資源開発に国家が無制限で投資出来る中国と出来ないアメリカ、又個人当たりの GDP 比がまだ低い中国とピークに達しているアメリカとではどちらが質と量を伴った経済成長が出来るか。

米中戦争を想定した場合、戦艦に 5 人の艦長がいて、時間をかけて民主的に戦略を協議するアメリカと、一人の艦長の独断で速攻する中国とどちらが勝つか。

鄧小平の改革開放時、日本はアメリカに邪魔されて、対中投資に遅れをとった。

今アメリカが新たに市場開放を求めて中国に進出しようとしている時、日本は高市首相の「台湾有事は日本の有事」で対中参入を拒まれる羽目になった。

アメリカが求める「日本主導の対中軍事包囲網」でアメリカは喜び、日本は戦後初めてアメリカにノーと言えるようになって喜んでいるが、その結果またもや日本は中国の大市場を目前にして参入出来ない。

喜ぶのはアメリカだけであって、本当は日本は喜べないのではないか。

トランプは、中国が欲しがめるアメリカの最新テクノロジーの規制緩和をすることで中国が独自に開発するのを阻止してアメリカに依存させようと考えているが、中国はアメリカの二流のテクノロジーを喜んで頂戴し、翌日はアメリカが頭を下げて、超一流の中国独自のテクノロジーを懇願することになる。

権謀術数 5000 年の歴史を持つ中国と 250 年のトランプのような悪徳不動産屋の一夜成金のアメリカでは元より勝負にならない。

日本は憲法第 9 条改正、三文書改訂、自主防衛でアメリカに求められる存在になり、名目上対米追従から逃れることになるが、アメリカ属国日本の本質は変わらない。

日本の政治家、官僚、政治・経済学者、シンクタンク、マスコミは「政治力学」の勉強が足りない。高市トレードの名のもとに高市政権は金融バブルの波に乗っているが、バブル崩壊の備えはあるのか。

今週発送開始予定の私の「小冊子」Vol.158 号を、我が日本の為に是非熟読して下さい。

※増田俊男の小冊子 Vol.158 先行受付開始！お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」

いつでも繰り返し何度でも視聴可能！

皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。

【配信予定内容】○損をさせない「早朝株式指南」○本日の世界政治・経済情勢の裏（真実）
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtube の視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U. S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313、HP：<http://chokugen.com/>）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。

先行受付開始!

増田俊男の小冊子 Vol.158 アメリカが変わる日本が変わる

- *これだけあるアメリカの弱み
- *奪わなくてはならなくなったアメリカの代表に選ばれたトランプ
- *アメリカのペンタゴン（国防総省）の国防戦略で求められる日本
- *日本がマッカーサーから与えられた憲法第9条をアメリカが取り下げる時が来た
- *腐っても鯛のアメリカ
- *新しい米安全保障戦略と日本
- *「資本の意志」が日本を選ぶ
- *新ジャパ・アズ・ナンバーワン
- *日本人の誇りの為に



【発送開始は6月後半予定】

但し、印刷・配送の都合により前後することがございますので予めご了承下さい。

★ネットのみクレジット決済対応。HPからお申込み下さい。http://chokugen.com/

フリガナ お申込み冊数 冊

お名前 振込名義

〒 -

※銀行振り込みの場合のみ。カタカナでご記入下さい。

住所（会社・自宅）

会社名

TEL FAX

商品価格 ¥5,800（税込み）⇒ **銀行振込み ¥5,980**（送料・税込） * A5サイズ
郵便代引き ¥6,580（送料・税込） * 30～50ページ
（代引き手数料） * 専用質問フォーム付き

ご希望のプランへ をお願いします。 **★海外発送承ります。（送料別途）**
 （※プランの選択がない場合は**発送できません**ので必ずチェックをお願いします。）

定期購読の場合
お得な特別料金となります。

- 12冊定期購読：銀行振込（総額¥69,696 ⇒ ¥58,300）
 - 6冊定期購読：銀行振込（総額¥34,848 ⇒ ¥30,500）
- 手間なし！優先発送！**
さらに送料無料！

- 単品：銀行振込（1冊毎のご購入の場合、¥5,980（送料込み）をお振込み下さい。）
- 単品：郵便代引き（1冊購入の場合、お受取の際に局員へ¥6,580お支払い下さい。）

※送料+代引き手数料=¥780が単価に加算されます。

- 発送は、着金確認後に普通郵便にて発送いたします。お届けまでに2～4営業日程かかります。
- お振込み後のキャンセルは出来ませんので予めご了承下さい。

【お振込先】みずほ銀行 池袋西口支店 当座 0106544 マスダユーエスリサーチジャパン（カ

※振り込み手数料はお客様負担となります。

※振り込み控えを持って領収書に代えさせていただきます。

適格請求書が必要な場合はにチェックをお願いします。 必要

FAX 送信先：03-3956-1313

マスダ U.S. リサーチ ジャパン 株式会社

info@chokugen.com